

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 **3** 回 助成期間： 平成**18**年11月1日～平成**19**年10月31日

テーマ： RECプロジェクト

氏名： 都留守

所属： 北九州市立西門司小学校

1. 課題の主旨

REC プロジェクト (project)

R recycling リサイクル (再生利用：廃棄物処理問題への対応)

E ecology エコロジー (環境保護：生物と環境との関係を考えて自然環境)

C clean up クリーンアップ (清掃活動：すっかりきれいに清掃する)

平成 18 年度より緑丘中学校区で環境教育に関する共同活動事業を実施することによって、小・中の連携を深めるためのプロジェクト事業である。

本中学校校区では環境教育を「人間を取り巻く自然及び人為的環境と人間との関係を取り上げ、その中で人口、汚染、資源の配分と枯渇、自然保護、運輸、技術、都市と田舎の開発計画が、人間環境に対してどのような関わりをもつかを理解させる教育のプロセスである」と考えている。

そこで、「自己を取り巻く環境を自己のできる範囲内で管理し、規制する行動を、一歩ずつ確実にすることのできる人間を育成する」ことを目指す環境教育を、三校が共同して行うことによって、小学校と中学校の連携を図り、小学校と中学校がともに理解し協力し合って児童・生徒の教育を推進することを目的としているものである。

2. 準備

プロジェクトの実行委員会を組織し、計画立案と準備を行った。

(1) 実行委員会 (以下の実行委員で組織する。)

プロジェクトリーダー (藤松小学校 校長)

プロジェクトサブリーダー (緑丘中学校 校長)

REC プロジェクト事務局 (西門司小学校 校長)

REC プロジェクト会計 兼 REC リサイクル作戦隊長 (西門司小学校 教頭)

REC プロジェクト書記 兼 REC リサイクル作戦事務局 (西門司小学校 教務主任)

REC エコロジー作戦隊長 (藤松小学校 教頭)

副隊長 (藤松小学校 教務主任)

REC クリーンアップ作戦隊長 (緑丘中学校 教頭)

副隊長 (緑丘中学校 教務主任)

(2) メンバー

緑丘中学校教職員、藤松小学校教職員、西門司小学校教職員で構成する。

3. 指導方法

○ 発達に応じた環境教育の8つの留意点

(1) 豊かな感性の育成

環境とそれに関わる問題や環境の実態などについて、関心をもち、環境に対する豊かな感受性を持つこと

(2) 身近な問題の重視

身の回りの社会現象や身近な自然の事象に目を向け自ら考えるようにする。

(3) 問題解決能力の育成

自ら問題見つけ→仮説(予想)→調べる方法→実施→結果→考察→吟味→新しい問題に応用

(4) 主体的に働きかける能力や体力

環境保全のためにどのような生活様式をとり、実践的な行動を取るべきかなど積極的に取り組む態度

(5) 活動や体験の重視

身の回りの環境に触れ、それらについて考えをめぐらすようにすること

(6) 総合的な把握力の育成

身近な問題→地球規模の問題にまで広がっている問題が相互に深く関わっていること

(7) 総合的な思考力・判断力の育成

自然や社会事象を多面的・総合的にとらえる。事実を尊重し実証的に考える。

(8) 専門分野における知識と技術の習得

環境の保全に関する取組＝基礎的・基本的な知識と技術の習得、よりよい環境の創造

以上の8つの点に留意しながら年間を通して次の活動を実施する。

4. 実践内容

○ RECリサイクル作戦

① 作戦本部 西門司小学校

② 実施時期

廃材収集9月～11月 リサイクル作品製作9月～12月 作品審査1月 作品展2月

③ 参加児童生徒

緑丘中学校(第1学年生徒) 藤松小学校(第3・4学年児童) 西門司小学校(第3・4学年児童)

④ 展示場所 各小中学校, 校区市民センター

○ RECエコロジー作戦

① 作戦本部 藤松小学校

② 実施時期 9月～12月

エコロジー図画・ポスター作品応募 9月 作品審査 10月 作品掲示 10～12月

③ 参加児童生徒

緑丘中学校(第2学年生徒) 藤松小学校(第1・2学年児童) 西門司小学校(第1・2学年児童)

④ 展示場所 各小中学校

○ RECクリーンアップ作戦

① 作戦本部 緑丘中学校

② 実施時期 年間3回(各学期1回)

今年度は5月, 11月, 2月に実施

③ 実施時間 1回1時間(小学校:45分×1, 中学校:50分×1)

④ 参加児童生徒

緑丘中学校(第3学年生徒) 藤松小学校(第5・6学年児童) 西門司小学校(第5・6学年児童)

⑤ 実施場所 緑丘中学校校区内の公園

5. 成果・効果

○ RECYサイクル作戦

牛乳パックやペットボトル等が再利用できる作品製作を行った。小学校では牛乳パックやトイレットペーパーの芯に布や紙をはって飾りつけたペン立てや小物入れ、ペットボトルを再利用した傘立てを製作した。中学校では牛乳パックからの再生紙作りに挑戦した。

○ RECエコロジー作戦

環境保全についての啓発をテーマにした図画・ポスター作品の製作を行った。小学生は集めた落ち葉を使って、虫も住むことのできる自然豊かな町づくりへの願いを表現した。

○ RECクリーンアップ作戦

三校の児童生徒を14グループに分け、校区内14箇所の公園の清掃活動を行った。

小中学生が一緒に汗を流し、公園のゴミが一掃された。緑地公園には粗大ごみや家庭ごみの投棄があり、身近な環境の問題を感じることができた。

6. 所感

各学校の行事や実行委員の出張などを考慮して実行委員会の日程を調整することが困難な時期があることが分かった。三校の日程調整をするには、年度当初から日程を確保し、見通しをもった計画的な実施が要求されることが分かった。3学期末には、次年度の実行委員会を中心とした事業の日程をあらかじめ調整する必要があると考える。「三校の日程を調整する」という活動そのものが、学校間で学校行事や学校の状況等を相互に理解し合う活動となった。

3つの作戦の実施計画を審議する過程で、各作戦の実施目的や実施内容の共通理解が必要になる。例えば、「いつ、どの学年を参加させることがよいか」等である。このことを検討する際、各学年の実態や学年行事等を相互に出し合い、理解し合うための話し合いが求められた。その話し合いの過程で、各学校の各学年の児童・生徒の実態や各学校の行事日程などを相互に理解し合うよい機会になった。

RECプロジェクト実行委員会で話し合ったことを校内で共通理解を図り、足並みをそろえて本事業を実施しないといけない。そこで、校内の体制づくりが必要となってくる。特に、本事業への深い理解と志をもった教員を委員長とする委員会の設置である。本事業の趣旨を職員一人一人が理解し、職員全体に浸透させることが必要である。そのために、職員への事業説明会を実施し、活動を通して事業のもつ深い意味を職員に感じ取らせていかねばならないであろう。その過程で、三校の児童・生徒の実態や学校行事等を職員一人一人が理解する機会にしていきたい。

7. 今後の課題や発展性について

緑丘中学校校区での事業は、RECプロジェクトだけで止まっているのは、本来の趣旨とは、ほど遠いものになってしまう。あくまでもRECプロジェクトを手がかりにして、小・中学校9年間の義務教育プログラムの開発が最終目標である。

「各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間」が9年間の積み重ねの中で目標を達成するための緑丘中学校校区義務教育プログラム(仮称「緑丘中学校校区ふるさと教育プログラム」)作成が求められている。この教育プログラム作成のための中・長期的事業計画が今後早急に作成されなければならないと考えている。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

